

評価項目	重点目標	具体的取組	主な担当部署	項目	平均値									現状に対する分析	分析結果に対する方向性
					教職員アンケート			保護者アンケート			生徒アンケート				
					2022年	2021年	2020年	2022年	2021年	2020年	2022年	2021年	2020年		
信頼される開かれた学校づくり	保護者、地域との情報共有	ホームページ情報発信 学校説明会	総務・年次・SS	(a) 年次通信・ホームページなどの情報発信がされ、学校・保護者との情報共有がなされている。	3.61 (90.3%)	3.54 (88.5%)	3.37 (84.3%)	3.43 (85.8%)	3.27 (81.8%)	3.22 (80.5%)	3.28 (82.0%)	3.23 (80.8%)	3.29 (82.3%)	今年度からeメッセージ(メール配信システム)を導入し、欠席連絡のみならず学校から保護者への連絡もメールで直接行うことが可能となった。またTeamsにより生徒への連絡、課題提出等、オンラインでの通信手段が確立されつつあり、これに対する評価は一定数得られていると考える。	コロナ禍での学校と生徒・家庭との通信手段として定着してきたeメッセージの活用や公式ブログ、ホームページでの情報発信は、さらにその頻度を上げながら質を向上させていくことに努めていく。また77回生から始まったタブレット端末を活用した授業、教育活動への有効活用については今後も研究を進めていく。
	生徒、保護者との相談体制や環境の整備	教育相談 学校安全 環境整備 人権指導	年次・保健・総務	(b) 生徒や保護者からの、主に学校生活や個人的な悩み等に関する相談体制が整っている。	3.38 (84.5%)	3.44 (86.0%)	3.25 (81.3%)	2.78 (69.5%)	2.89 (72.3%)	2.92 (73.0%)	2.93 (73.3%)	3.01 (75.3%)	3.00 (75.0%)	教員側の注ぐエネルギーに対して今回の評価項目の中では保護者の評価が低調に終わっている。これは新型コロナウイルスの影響で生徒のメンタルケア、人間関係の構築について慎重を期す必要が高まっている中、更に丁寧な対応が求められているものと考えられる。	eメッセージや電話による連絡をより頻繁に行えるようにしていくこと、校内の業務改善を進め、担任・年次団を中心に教員側が、SOSを発信していない生徒に対しても心配りができる時間的余裕を持てるよう配慮していく。同時にキャンパスカウンセラーの活用も推進する。
				(c) 教育目標や特色、または地域の期待に応じた学習環境整備がなされつつある。	3.09 (77.3%)	3.08 (77.0%)	3.30 (82.5%)	2.97 (74.3%)	3.06 (75.3%)	3.09 (77.3%)	2.96 (74.0%)	3.01 (75.3%)	2.95 (73.8%)	ここ数年で自習教室、質問室の活用、普通教室のプロジェクト等、教室内の学習環境は改善されてきた。特別教室の空調、ホームルーム教室の個人ロッカー等も同窓会・PTAのご協力導入された。	コロナ対応による夏の自由服、冬の教室内防寒着着用等、柔軟に対応してきた本校だが、アフターコロナ、またLGBTQの観点から制服の見直しを進めている。 また、77回生から順次始まったBYODにより、これからの授業のあり方も大きく変化していく中、教員側のさらなる研修が今後も必要である。
教育の質の向上	学習意欲を高める教育内容の展開	教育課程 学習指導	教務・各教科	(d) 普通科・音楽科のそれぞれの特色を生かす教育内容が工夫されている。	3.23 (80.8%)	3.21 (80.3%)	3.25 (81.3%)	2.96 (74.0%)	3.13 (78.3%)	3.10 (77.5%)	3.17 (79.3%)	3.22 (80.5%)	3.25 (81.3%)	今年度、音楽科40周年記念行事を盛大に行うことができた。また、3年ぶりにマラソン大会を実施するなど、コロナ禍の状況でも学校行事を工夫しながら行うことができている。	今年度、策定されたスクールミッション達成に向け「リサーチ」「課題研究」の再検討を進める。またグローバル教育として海外との交流のあり方を更に検討していく。
	教員の授業力、指導力向上		教務・各教科	(e) 定期的な補習や学力不足を補う補充授業など生徒の能力・適性・ニーズに応じた指導が行われている。	3.3 (82.5%)	3.59 (89.8%)	3.48 (87.0%)	*	*	*	3.13 (78.3%)	3.28 (82.0%)	3.30 (82.5%)	平常補習や長期休業中の補習を充実させ、ふだんの小テストも積極的に行うなど、学力向上に努めた。質問室も利用しながら個別指導にも力を入れた。	補習授業において、基礎編・応用編など習熟度別補習を実施し、きめ細やかな指導を行う。スタディサブリの利用をさらに進め、自学自習の手助けをするともに、生徒の学習ニーズに今後も応えていく。
	進路指導の整備、勤労観・職業観の育成	進路指導 キャリア指導	進路・キャリア 教育推進・年次	(f) 授業は工夫されて生徒の興味関心を高め、学力向上につながるものとなっている。	3.25 (81.3%)	3.36 (84.0%)	3.09 (77.3%)	*	*	*	3.07 (76.8%)	3.09 (77.3%)	3.02 (75.5%)	各自で生徒の授業評価アンケートを分析し、授業改善に努めた。また、ICTの活用を広げるなど、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善を進めた。	教員一人一人の授業改善の意識を高め、指導方法を工夫し、生徒の能力をより一層伸ばす授業を展開する必要がある。そのための授業公開や研修会を充実させる必要がある。
				(g) 最近の進路指導実績は、生徒・保護者の期待に応えるものになっている。	3.16 (79.0%)	3.33 (82.2%)	3.18 (79.5%)	2.95 (73.8%)	3.10 (77.5%)	3.10 (77.5%)	3.08 (77.0%)	3.19 (79.8%)	3.17 (79.3%)	年々新入生の入学時の学力レベルは上がっており、学習指導・進路指導を適切に充実させていくためには、学力分析とそのフィードバックが不可欠である。	より高いレベルの進路実績を求めて、進路指導に向けた眼差しや評価が、厳しさを増している現状が窺われる。寄せられた期待とニーズに応えるべく、取り組みを充実させていきたい。
				(h) 生徒や保護者からの、主に学習や進路に関する相談体制の整備や、適切な情報発信が行われている。	3.30 (82.5%)	3.21 (80.3%)	3.15 (78.8%)	2.95 (73.8%)	3.07 (76.8%)	3.04 (76.0%)	3.14 (78.5%)	3.18 (79.5%)	3.20 (80.0%)	適宜、進路集会・進路講演会・大学説明会・校外進路研修・出張講義・面談などを企画・実施し、それらを通じて進路情報を発信している。	教職員の意識と生徒・保護者の評価とに齟齬が見られる。今後の情報発信をより充実させたい。特に、新課程入試に向けての情報提供に力を入れたい。
自主・自立の精神の育成	基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上	清掃 生活指導 集団指導	生徒・総務・年次	(i) 進路意識を高める様々な授業(リサーチⅠⅡ・課題研究・年次集会・講演会・個別面談等)が有効・適切に実施されている。	3.30 (82.5%)	3.26 (81.5%)	3.14 (78.5%)	*	*	*	3.09 (77.3%)	3.21 (80.3%)	3.24 (81.0%)	毎年見直しを加えつつ、様々な企画・取り組みによって生徒の進路意識を高める工夫をしている。社会の変化が加速していく中で、自分を見つめ直す機会の重要性が増している。	令和5年度の「総合的な探究の時間」の内容・あり方を一部見直したことが、どのように評価されるかに注目しつつ、関係各部との連携を深める中で、指導体制の充実を図りたい。
	部活動、行事などの活性化	生徒会指導 部活指導 諸行事	生徒・年次	(j) 生徒に対する諸規定(制服・頭髪等)の設定はほぼ適正である。	3.02 (75.5%)	2.82 (70.5%)	2.73 (68.3%)	3.07 (76.8%)	3.08 (77.0%)	3.10 (77.5%)	2.91 (72.8%)	2.93 (73.3%)	2.80 (70.0%)	昨年に続き、新型コロナウイルスと熱中症対策のため、夏の私服登校を認めた。また、防寒具の緩和についての要望に応え、コート類を自由化し、日常の防寒上着の着用を認めた。保護者からはさらなる緩和を求める声もある。	LGBTQに対応できるような制服のあり方に向け検討していく。BYODによるタブレット端末の校内外での使い方、ネット利用の安全について指導していく必要がある。
				(k) 学校行事(定期戦・文化祭・体育大会等)は活発に実施されている。	3.21 (80.3%)	3.26 (81.5%)	2.86 (71.5%)	3.22 (80.5%)	3.21 (80.3%)	3.00 (75.0%)	3.14 (78.5%)	3.11 (77.8%)	2.92 (73.0%)	県西祭では、調理を伴う食品バザーが出来なかったため、模擬店の在り方を工夫した。体育祭・冬季文化発表会では、保護者の来校を認めた。体育大会では、大縄やクラブパフォーマンススリラーを行うなど、幾つかの競技をコロナ前に戻した。	生徒が主体となるような学校行事の在り方を目指し、生徒の自己肯定感が高まるような取り組みを行う。そのために学校行事をコロナ前に戻すだけでなく、それ以上の企画を検討する。
			(l) 部活動や生徒会活動は活発に実施されている。	3.32 (83.0%)	3.49 (87.3%)	3.45 (86.3%)	3.30 (82.5%)	3.41 (85.3%)	3.27 (81.8%)	3.38 (84.5%)	3.50 (87.5%)	3.50 (87.5%)	昨年同様コロナ禍で、部活動や生徒会活動にさまざまな制約がある中、感染症対策に努め、各部が工夫しながら活動を行った。その結果、今年も多くすばらしい実績をあげた。生徒会活動では、風紀委員のあいさつ運動や美化委員の校外清掃活動など、新しい取り組みも始めた。	高い評価が継続して得られている。今後も県の「いきいき運動部活動」「文化部活動の在り方に関する方針」に基づき、部活動の活性化に取り組む。生徒会活動も広く生徒の参加を促しながら、自主的な活動を拡充させたい。	

*は該当項目なし
 職員アンケート評価基準(4段階) 4達成できた 3概ね達成できた 2あまり達成できていない 1達成できていない
 保護者・生徒アンケート評価基準(4段階) 4そう思う 3どちらかといえばそう思う 2あまりそう思わない 1そう思わない